
小説 蛙

hentai be-sisuto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小説 蛙

【Nコード】

N3056P

【作者名】

h e n t a i b e - s i s u t o

【あらすじ】

結構短い短編小説です。掌編っていうのかな。

蛙

「蛙がない」

ふと俺は呟いた。そう、それだけ。ただ蛙がないだけなのだ。俺はこの春、東京のある大学に入学した。偏差値のそこそこの私立大学である。俺は特に熱心に勉強に取り組まなかったから、ここにしか来られなかったのだ。いや、受験なんてどうでもよかった。ちようどよさそうだったから入ったのだった。実家は地方だからアパートを借りて一人暮らしをしているわけだが、東京にあまり季節は感じられない。もちろん温度の変化はある。だがそれが季節だと言うのなら、どうでもいい。東京にも木は生えてる。公園もあって木が生えてる。

ああ、俺の生活圏内だから他はどうだか知らないことをここで断っておく。

まあ、そんな風に木は生えてる。車道の隣に生えている。まるで齒のように生えてる。そしてただ生えてる。公園には木が集まっている。それが何かを成すわけではなく、ただ集まって生えている。土もただ露出している。

それで俺は宵になった窓の外を眺めて、蛙がないと呟いただけなのだ。九月過ぎには、故郷では蛙が鳴いていただろう。やかましいほどに夏が残した暑い夜中。蛙が鳴きやまない夜。ベランダに出ると手すりかほのかに露を含んでいるのだ。

俺は夏、実家に帰らなかった。特に実家でいたいこともなかったし、それにこっちは自由だし、友人もいたし、そして俺は何かをして過ごして。

ああ、蛙がないのか。

じゃあ「探しにでも行くか」

俺はふらふらと出かけた。

近所になにかあるだろうと、てんで考えずにほつつき歩く。だが特になにもねえなあとと思う。俺は駅までも道のりしか知らない。だいたい友人とどこかで待ち合わせで出かけるからだ。あとはコンビニとビデオショップ、ファミレス、その他少数もろもろ。駅もアパートから近いから俺はアパート周辺には疎いのだろう。

くだらなく、あつちのほうが郊外かなと歩いて行く。蛙が妙な力でゆっくりと俺を引っ張って行く。郊外がどっちな知らないが、駅から遠くに行けばあるだろう。郊外なら蛙の一匹くらいいるだろう。

ああ、歩くのがとろい、だるい。自転車欲しい。だからと言って大学の駅まで行くのはありえない。蛙を探しに電車ですてなんだよ。まあ今手ぶらだし、やんねえってか、やらねえけどな。ああ、蛙探してのものないか。じゃあ、俺何やってんだろうね。ああ、蛙、蛙、あー……蛙、蛙ってなんだよ。蛙がどうしたっての。あー蛙。いい加減でてこいや。

家を出て十五分くらい歩いただろうか。いい加減にしくなってきた。自分が蛙を探しているのが本当に鬱陶しくなってきたのだ。最初から気だるく、少しずつ鬱陶しさは募ってきていたが、なぜか蛙が俺の頭を蹴るのである。ぴょんぴょこと跳ねまわるのだ。だが、俺もそれに逆らえるほどに鬱憤が溜まってきた。そしてその蛙と冴えない苛立ちが拮抗して、俺はやっと立ち止った。

立ち止って、うぐと呻きなくなる。こちなさを俺は感じた。少し前で自販機が夜闇にシヨ―を見せるように白い光を放っていた。夏が過ぎても、そこには羽虫が大量にたかっていた。その中に一匹羽虫より一段大きな生物がいる。

俺は近寄って行って、じつと見つめてみた。

それは違わず、蛙であった。黄緑の肌をした、瞳の丸い、ちっさなアマガエルであった。

少しの間、羽虫を鬱陶しく思いながら観察していたが、東京の蛙はただのカエルとしているだけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3056p/>

小説 蛙

2010年12月5日03時43分発行